

# USA Report from New York

by Sei Eguchi

## 大会の概要

New York 州で毎年開催される Forensics tournament である。大会は二日間にわたり、予選 2 Round+Final Round。予選 2 Round の合計点上位6名が Finalist として選出される。Finalist に選出されると自動的に全米 Tournament への参加資格を得る。(今年は開催されず)出場者は以下の部門に事前 Entry する。(ただし Multi Entry 可)

Extemporaneous Speech

After Dinner Speech

Poetry

Dramatic Interpretation

Impromptu Speech

Program Oral Interpretation

Persuasion

Informative

Prose

Dramatic Duo

## 各部門の説明

### 1. Extemporaneous Speech

Forensics Tournament において、最大かつ最も高い能力が要求されるイベント。スピーチ形式は 30 分の Preparation Time、7分 Speech、Q/ASession なし。Title は Domestic Problem, International Problem, Quotation の三つが一般的。日本の ESS 界で行われている Extemporaneous Speech と大きく違う点は、Speech 中に情報 Source を必ず盛り込む点。最低 10 Sources が普通。Contestant が全員資料を持参し、一つの箱の中にまとめられ、その資料を Share し、情報 Source として用いる。

### 2. After Dinner Speech

日本の ESS ではお目にかかることはほとんどない Speech to Entertain を Specific Purpose とした Speech 形式。Speech 中に Humor を盛り込みつつ、

真面目な論理展開をしていく Speech 形式。大半の After Dinner Speech が Problem-Solving Format を用いている。

### 3. Poetry

詩を Audience の前で朗読するもの。感情表現豊かな Delivery が高い評価を受けるのは言うまでもない。Speech Communication Major の学生のみならず、Theater Major の学生もしばしば参加する。

### 4. Dramatic Interpretation

Dramatic Interpretation は時間の都合上観戦することができなかったのもので、どういったものか把握していません。申し訳ありません・・・

### 5. Impromptu Speech

Quotation が書かれた紙を一枚渡され、3分間の Preparation Time の後、4分間の Speech を Delivery。Q/A はなし。ちなみに私が引いた Quotation は 2 Round とも New York Times からの引用で、“No great scoundrel is ever uninteresting.”と“How owns history?”会場では Judge と一対一になり、Preparation を開始する。Delivery の際も Judge と一対一。

### 6. Program Oral Interpretation

Program Oral Interpretation も観戦する時間がなく、把握していません。。

### 7. Persuasion

10 分間の Prepared Speech。Q/A Session はなし。Q/A がないので、Audience や Judge に自分の論理展開に関して疑問をわかせてしまったら最後。従って、情報の信憑性や論理展開がはっきりしていることが Persuasive Speech の評価では大きな Weight を占める。

### 8. Informative

10 分間の Prepared Speech。Q/A Session はなし。After Dinner Speech と Persuasion の中間に位置するような Speech 形式。読んで字の如く、情報を Audience に伝達する Speech。Persuasive Speech に比べると Humor を含むことができるので Forensics Tournament において最大のイベントの一つ。

### 9. Prose

Prose も観戦していません・・・

### 10. Dramatic Duo

二人 Pair になって詩を朗読するもので、Image 的にはショートコントのよう

なもの。二人で詩朗読しつつ、Action や Gesture、声の Tone などて笑いを取ったり、Serious な場面を伝えたりする。

## 日本のSpeech大会との違い

### 1. Judge との距離

物理的な距離は日本もアメリカもあまり変わらないと思いますが、精神的な距離は圧倒的にアメリカの方が近いなと感じました。アメリカの Forensics Tournament の Judge は正装ではありません。セーターとジーンズで Judging をしているので、Delivery している側からもメモを取っている Audience の一人くらいにしか見えません。Judge も Audience の一人であるとしばしば Speech 大会のコメント等で耳にしますが、日本の Speech 界では果たして Speaker はそう感じる事ができているのでしょうか？大会運営をこれから行っていく人に聞きたいのですが、意識の中で、Judge>参加者>Audience になっていないのでしょうか？Judge をなさる諸先輩方に粗相があってよいわけがありませんが、Audience より Judge の地位は上なのではないか？

### 2. Audience の反応

アメリカの Speech 大会における Audience は日本のそれと比較すると Humor 等に対する反応がとてもよいという印象を受けました。日本の Speech 大会で Humor を交えた Speech が少ないことも一つの原因ではあると思いますが、やはり日本の Speech 大会における Audience の反応はそっけないのかな？という印象を受けます。大会終了後、参加者同士、Judge、Audience が Speech について必ず評価をしてくれます。お互い Feedback を交換しあうことはお互いにとってプラスになると思うので、この習慣は是非見習うべきだと思います。

### 3. 全体的な印象

Forensics 大会ということも作用しているのですが、全体的にその場にいる全ての人が Speech を楽しんでいるという印象を受けました。Persuasive Speech よりも Informative Speech の方が大会規模が大きいことがこのことを如実に物語っていると思います。様々な人に Persuasive Speech についてインタビューしてみましたが、大体の答えが「つまらない」でした。日本の ESS 界における Persuasive Speech のレベルの高さを実感した反面、素直に「楽しむ」という視点が少々欠けている気がしました。確かに日本の Speech 大会に足を運ぶと、様々な Topic と論理展開に出会い知的好奇心をそそり、「楽しい」と感じます。しかし、アメリカで Speech 会場が笑いに包

まれる瞬間を目の当たりにし、Humorを交えた Communication Style が ESS にもっともっと導入されても面白いのではないかと強く感じました。

[Top Page](#)